

令和3年度「県立学校による地域との協働推進事業」実施報告書

番号	2	学校名	国際高等学校
----	---	-----	--------

1. 事業内容について

取組・活動・事業名等	第28回秋風のコンサート
教育課程上の位置付け・目標又は活動のねらい	地域と共にある学校づくりの活動の一環として実施しており、学校を開放し、生徒の活動の一端を紹介することにより、地域の方々の学校理解を深め、生徒に地域社会に支えられていることに気づかせ、地域のために貢献できるような人材を育成している。
連携・協働相手	マミーズ保育園、登美ヶ丘北中学校吹奏楽部、地域住民
地域と共有している目標・課題等	コロナ禍で活動が制限される中、つながりを大事にして、お互いの発表の場を構築し地域からの発信力をつけていくこと。
取組・活動の内容（生徒の主体性、具体的活動、連携・協働内容など）	
<p>国際高校として、登美ヶ丘高校が地域と築きあげてきたイベントを基礎にしてその継承をすることができた。生徒会がすべての生徒に呼びかけて実施した取組であり、参画した生徒は「演奏会の準備・出演する団体との交渉・プログラムの複数言語化・宣伝ピラの作成・会場準備・当日のおもてなし」について、国際高校ならではの工夫も含め、PDCAの視点も意識しながら主体的に活動することができた。</p> <p>地域イベントを創り上げる経験を通して、生徒は成就感を得ることができた。</p> <p>なお、コンサート運営と並行して、生徒会がこのイベントにおいて地域で困っている人たちへの支援のための義援金集めを実施した。</p>	

2. 事業の成果と課題

<p>「奈良県みんなでのしむ大芸術祭」の一環として行っていること、そして地域の教育機関を結びつけていることで、四半世紀にわたり地域に根ざした行事として住民に定着してきた。今年はコロナ禍の中、実施直前に県教育委員会のガイドラインが出され、1ヵ月順延して予備日として設定していた日に実施した。当日の入場は、両校現役生と登美ヶ丘高校卒業生及びゲスト出演者の家族等関係者限定としたが、200名の来場を得た。本番は2年ぶりに中庭で夕方からの実施となり、好天に恵まれ、夜間の冷え込みもなく、運営面でもお客様、出演者とも快適な中での開催ができた。イベントの一環として義援金集めを実施したが、生徒が、地域の構成員の一員として、自らの学舎で義援金を集める活動を行うことで、地域社会への発信力を感じられたことも大きな成果である。</p> <p>登美ヶ丘高校と共同で行ったこの事業を来年以降も生徒会を中心に引き継いでいくにあたり、国際高校にしかできない視点を盛り込んでいくことが必要だと考える。地域力の向上を図るという観点では、毎年協働してきた団体だけでなく、多種多様な活動をされている登美ヶ丘地域の団体等と協働し、本校を地域の拠点として幅広い取組の場を創っていくことが必要である。</p>
--

